「地球温暖化の影響対する意識と行動に関する調査」リサーチプラン

1. 調査の背景と目的

地球温暖化の進行に伴い、気温の上昇に加え大雨の増加や農作物の生育への影響等が顕在化している。大阪府においても、「大阪府地球温暖化対策実行計画」、「おおさかヒートアイランド対策推進計画」（共に2015年3月）を策定し、温室効果ガスの排出抑制や再生可能エネルギーの普及促進及び、省エネ行動促進等様々な対策を推進している。今後も気候変動の影響は避けられないと予測される中、温暖化の緩和策を講じると同時に府民一人ひとりが気候変動に対応していく必要がある。そこで、本アンケートにより、府民の気候変動に関連した行動や認識を把適し、温暖化対策を推進するための資料とする。

1. 調査仮説

仮説１　家族構成や居住環境、年齢、ライフスタイルにより、温暖化の影響に対する認知度や実感や行動（適応策）※に差異がある。

仮説２　屋外で「クールスポット」を利用したことがある人は、そうでない人に比べ、エアコンを利用する場合に、家庭において28度設定をしている人が多い。

仮説３　日中外出する頻度が高い人ほど、「クールスポット」をよく利用している。

※温暖化の原因となる温室効果ガスの排出量を削減する取組みを「緩和策」と呼ぶのに対し、温暖化の影響に伴う気象変動による影響に対応していく取組みのこと。

1. 調査対象　国勢調査結果（平成22年）に基づいた、性・年代・居住地（４地域）の割合で割り付けた、15歳以上の大阪府民1,000サンプル
2. 質問項目

　予備質問４問

本質問４問

【予備質問】

ＳＣ１　性別

ＳＣ２　年齢

ＳＣ３　住居（都道府県）

ＳＣ４　住居（市町村）

【本質問】

1. 地球温暖化で顕在化している気象変動等の実感（表組）

（猛暑日や熱中症の増加など）

1. 地球温暖化による影響の認知度(表組)

（熱中症リスクなど）

1. 各適応策の取組状況（MA）
   * 1. 熱中症→こまめな水分補給、エアコンの利用、外出控える
     2. 農作物→買い控える、他の野菜で代替、比較的安い外国産、植え付け時期の変更、他の品種への転換
     3. 水害→土嚢の準備、地下駐車場対策、水の備蓄、ハザードマップの準備、危険箇所の把握、避難訓練の実施
     4. 衣服→上着を常に持ち歩く、通気性のよいもの、日傘や帽子の携帯
     5. 水光熱費→エアコンと扇風機の併用、HEMSの設置、省エネタイプの機器の設置、緑のカーテン
     6. 感染症
2. 各適応策の取組みを始めた時期（表組）

前問からわかりやすいもの抜粋)

1. 「適応策」の認知度(SA)
2. 普段自宅でのエアコンの使用の有無（SA）
3. 屋外の比較的涼しい場所での休息経験(SA)
4. その場所の構成要素等（最もよかったもの）(MA)
5. 選定理由(MA)
6. 認知方法・経路（MA）
7. 昨年の夏のエアコンを28度設定したか(SA)
8. 日中外出することが多いか(SA)
9. 世帯構成(MA)
10. 居住形態(SA)
11. 住宅環境(SA)
12. 職業（業種）(SA)

検証方法

　仮説１　性年代、Q12～14×Q１、２、３（反応個数）

　仮説２　Ｑ7×Q６×Q11

　仮説３　Q12×Q7